

まだ咲かぬ梅の下掃く冬至か

同

暮知らで居るか雪野の夕鳥 相 模 樂 山 人

提灯に別れて廣く雪の道 遠 江 西 村 三 省

風の子の交りて寒き炬燵か 信 州 今 井 一 舟

水涸て漁村の柳まばらなり 芝 區 井 上 さ よ 子

三 光

天、氷る夜や路次へ消え行く下駄の音 藤 置 ゆ か り 子

地、遠征の身の思はるゝ寒さかな 月 田 一 甫

人、佛今桶へ入れたり鐘氷る 久 米 た つ 子

追 加 無 一 庵 奇 零

いつもく悔てすごしぬ年の暮

辻店の今川焼や夜の寒さ

寒き夜や九尺二間の手内職

道すがらの感

久保やま子

私は日本内地で度外視せられて居ります九州の  
 西南陲、日向の國に居る者で御座いまして何も存  
 じませんから、唯雑誌や會報で僅に皆様のお安否  
 を承りましたり御旅行日記や御秀逸を向ふが唯  
 一の快樂なので有ります、隔年位には必ず出京も  
 致しますが、ほんのある一部の御方々を御訪問申  
 位、何か年來の御禮としてお土産もがなと存す  
 が、切田舎は土嗅き御談ばかり皆様の御耳を煩す  
 様な事は更にないで困りました、  
 扱此度の出京は少し例外の道を選択びまして土々  
 呂と申小港より神戸には参りませんで豊后地に上  
 陸迂廻して筑前筑後地に入寄り所用を便じまして  
 東上の途に就き九鐵より山陽線東海線と移りく

まして近州地にかゝりましたのは、丁度郷里を出てから八日目、元來が船も車も不得手の私、殊に時局柄として唯獨り今年七歳になりませす惡盛りの男子を携へての旅の事ですから、心使も一層多く身にしみ／＼と旅の疲勞を感じました、近江の米原驛は乗り込みました列車の終點を幸ひ暫く旅店に休息して、後發列車の着を待つことに致しました。

午後三時になりますと後發列車は笛聲と共に勇ましく着車致しました、丁度軍隊の輸送頻繁の折で驛員は眼を眩す計り、乗客も客車の減少せしため常に倍し、其混雜謂んかたなく漸くにして乗りは乗りましたか中途より飛入ですから列車中の人波に動搖れ身体を置くべき處を見出しかねました。太陽は既に地平線下に没する頃になりましたので

先乗の客は毛布を擴げ華胥に遊ぶ用意に忙はしき様のもあります、同じ權利をもつ乗客ですが此の様になりました時は全く修羅の街、老幼婦女子は片隅に縮まつて居らねばならぬ有様、誰所理するものも御座ませぬので、先客の専横も随分甚しう御座いました、私の起て居ります側の腰掛に五十余のお婆さんと、十七八才位の娘さんが、今しも悠々と人に取りられぬ様にいやに腕を伸して毛布を擴げて居ります、丁度よいと私は何處までお越し遊べませす混雜には困りましたとぞ少し子供をおかけさせ遊してと云ふを打けし、横濱迄參りますの永の旅ですからお氣の毒様ですがと、獨り得顔に席を譲らふとも致しませんでした。其時に嗚呼と獨り身なら終宵立往生も物かは、遼東や滿州の野に露營せらるゝ我が忠勇なる軍隊の將士に比べ

なば然りながら頑是なき幼童はやがて睡眠を催すべし、今少し幼なくば背負ひも侍られんはたいかいせんと殆と途方にくれて忙然として起て居りました一刹那、此處にお掛けなさいこんな時は皆一所がよいとの天の美聲は突如として背後に響きました、地獄で佛に逢ふた様な氣がして振り向きますと、鼠色の着物に鼠物の衣を召した坊さんが珠數を爪繰りながら清淨な白毛布を擴げ、籠末でさがさー此れにと謂はれましたので、恐れ入りました、誠に有難ふ存ますと一禮して毛布を少し傍へにやりければ籠末ですが此儘にとの坊さんの詞にさらばと子供を抱き挙げました、するとあなたもといはるゝにまかせ腰を掛けました、すると先のお婆さんの足が私の膝の處に丁度さはりますのでさすがのお婆さんも氣の毒と思ひましたかそろゝ

と足を縮め始めたので御座いました、それから私が携帶品を網棚の上に揚げたらばと存じまして、仰で見えて居りました、そうすると坊さんは直ぐ起て自身の革包を取り卸されたので、私はなんともお氣の毒で居た、まれぬ様に存ました、すると坊さんがあなたは何處まで御出と問われましたから、新橋迄と申しますと、私も新橋迄ですか、今夜は岐阜邊で泊る積りです、さーあなたのをと謂はれました、其後子供が幾度も〜車窓を開閉して困りますから、止めましたら、坊さんが子供は致し方がない、止めてはよくないとて、幾度か自身に開閉の勞を採られしました、夜と共に乗客は減するで有らふと思の外、停車場毎に反て増加し、遂に立錐の余地も無き迄に至りぬる折しも、六十余りのお爺さんが蹠跟して起て居るのを見ま

すと、坊さんは突然起てお爺さんお掛けなさい、此處にと申されました、するとお爺さんは喜び涙を流しながら恐縮で御座います、貴僧が左様になさつて下さいましてはと辭しました、すると坊さんはでも私はあなたより若い者と微笑されました。左様致しますと、今まで黙して居た側の若い坊さんが私がつて起ちました、すると先きからの坊さん、左様か前前は私より若からとて座に就れました、此活劇を見たり聞たり致して居りました列車中のお客は何と思ひましたか、今迄で横臥して居た人は坐し、坐して居た者は腰掛けとなり、互に少しづつ、席を譲りましたから、前の修羅道は忽ち變じて天上界となり、幼者は鄰客の膝を枕に安眠し、老者は其保護を悦んで隨喜の涙を禁じわへぬ有様となつたので御座います、聖人が、徳孤

ならず必ず鄰ありと申されたのは此の事だろふと存ます、列車中幾十の人は必ず此の無聲の説教に幾何かの刺激を感じたらふと存ます、何卒私達も（フレベル會）此坊さんの様に寄りく無聲の説教を致しまして、社會の腐敗を刺激致したいものと存ます。

昨春出京致しました時と本年とは女學生の体格なぞも余程宜しくなりました様に見受けられますが、随分今日の女子教育社會はまだむづかしく進歩すれば進歩するほど、善評に伴ふ悪評も受けねばなりません様な都合に成りゆきますから彌無聲の説教が肝要だと存ます、私は此の無聲の説教に今更の様に感じましたから一寸御紹介申上ます此坊さんは武田芳淳と云ふ方で、浄土宗中錚々のお方だそふで御座います、此度の旅行は時局柄です

から随分多趣味御紹介申上たけい事も澤山御座いま  
したが、筆か廻りませんから他日又申上ると致し  
ましよう左様なら。

此の行申高山彦九郎の墓に參て

君ませし百幾とせのそのかみを

手向の水にくみてこそしれ

家庭とは何ぞや (答を募る)

家庭といふ言葉は、近頃になつて著るしく人の注  
意する所となりました。そして此家庭といふ言葉  
は極近頃になつて出来たので、多分英語のホーム  
といふ語に相當するのでせう……、で、

家庭とは何ぞや

といふ問と設けて、家庭の意味を極簡明に表出す  
るのは、極めて面白い許りでなく、又所謂、家庭

生活を營んで行くに頗る必要なとと、考へますか  
ら、こゝに廣く、之についての答を募ります。左  
記の條件御承知の上で、何卒、續々御贈附を願ひ  
ます。

一、用紙は端書、文句は成るべく簡短なるを要  
す

一、氏名は匿名にても宜し

一、期日は來二月十五日まで

一、答案の優等と認められた方三名までに粗品  
を呈す

一、答案は左記の處宛て御發送のこゝ

東京下谷區竹町一番地 東 基 吉

一、答案は多い程宜しいから、讀者に限らず何  
人でも答へられます

尚、参考のため、次に、外國に見えたる、面白